

教 育 研 究 業 績

氏名 増田 泉
学位： 修士（教育学）

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
教育学	国語科教育学	
主要担当授業科目	国語科指導法、国語、子どもと言葉	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 1) 演習の活用	平成 30 年 4 月～現 在	授業で配布する資料には、理論的な部分と演習を行う部分の両方を入れ、学生の実践力がつくよう指導した。
2) 保育者養成のための文字指導	平成 30 年 4 月～現 在	保育に関する漢字や用語の指導を繰り返し、実習日誌や履歴書に正しく記述できるよう取り組ませた。整った文字を書く学生が増えた。
3) 全員への添削指導	平成 30 年 4 月～現 在	大学の小論文指導の際、書き方の基本から指導し、全員に添削指導を行っている。学生の文章力向上を図った。 学習指導案の添削指導も行い、模擬授業と合わせて助言した。実践力向上を図った。
4) 双方向のオンライン授業	令和 2 年 4 月～令和 3 年 7 月	資料を事前に WEB 上に掲載して予習復習ができるようにし、Zoom での授業を行った。Zoom の授業でもグループ活動を取り入れ、学生相互の学びが深まるようにした。玉川大学「国語科指導法」においては、Zoom 上でも模擬授業を行い、学生の実践力向上に努めた。
5) 「追いかけてスピーチ」の活用	令和 3 年 4 月～2 令 和 4 年 3 月	ゼミナールの授業で学生に 2 分間のスピーチを課し、そのスピーチを別の学生に要約させて元のスピーチの半分の時間で説明させた。学生の聞き取る力、要約する力、論理的思考力が向上した。
2 作成した教科書、教材		
1) 『はじめて学ぶ人のための国語科教育学 概説 小学校』	平成 30 年 5 月	国語科指導法で使用する教科書として作成し、玉川大学教育学部「国語科指導法」において教科書として使用している。国語科専攻以外の学生が読んでも学べるように、概要を分かりやすく説明している。(明治図書、共著)
2) 『保育者をめざす人のためのことばの表現 一話す・聞く・書く』	平成 31 年 4 月	保育者に求められる話す・聞く・書く力を高めるために、新島学園短期大学コミュニティこども学科「文章表現法Ⅰ・Ⅱ」の教科書として作成した。現在、常葉大学保育学部「国語」の教科書として使用している。(建帛社、共著)
3) 『大学生のための国語表現』	令和元年 5 月	大学生がレポートを書く上で必要になる文章を書き方を示し、新島学園短期大学キャリアデザイン学科「文章表現」の教科書として作成した。文章を書く力の向上を図るために、現在、常葉大学保育学部ゼミナール等で使用している。(東洋館出版社、共著)
4) 『論理的文章を書く・話す力を高める論 理ドリル』	令和 3 年 9 月	アカデミックライティングのスキル向上のための具体的な文章例や練習問題を示し、常葉大学保育学部 1 年生の学びの導入科目である「教養セミナー」及び「国語」の授業で使用した。2022 年 9 月には改訂版を出した。(単著)
5) 『大学生の国語』	令和 4 年 9 月	保育者をめざす学生に身に付けてほしい国語に関するドリル集である。常葉大学保育学部 1 年生の「国語」の授業で使用した。(単著)

5 その他				
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日		概要
1 資格, 免許		昭和 59 年 3 月 昭和 59 年 3 月 昭和 59 年 3 月		<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校教諭一級普通免許状 ・ 中学校教諭一級普通免許状 (国語) ・ 高等学校教諭二級普通免許状 (国語)
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
1) 小学校、中学校教員としての実務と授業実践		昭和 59 年 4 月～平成 30 年 3 月		<p>茨城県稲敷郡河内村立源清田小学校、茨城県取手市立野々井中学校、東京都八王子市立三本松小学校、東京都八王子市立上柚木小学校、神奈川県川崎市立真福寺小学校、東京都世田谷区立砧南小学校にて、全学年の担任を担当し、主に国語科指導において、校内研究や地区の研究会で同僚や後進の助言及び指導を行った。また、教師道場のリーダーとして部員の指導を行った。</p> <p>(東京都大田区立鈴ヶ森小学校、同大森東小学校、東京都品川区立浜川小学校、東京都世田谷立二子玉川小学校、同明生小学校、同喜多見小学校、同松沢小学校、同中町小学校、同用賀小学校、同烏山小学校、同上祖師谷中学校、同砧南小学校、同九品仏小学校)</p>
2) オーストラリア大使館韻としての勤務実践		成 17 年 7 月～平成 19 年 7 月		<p>オーストラリア大使館豪日交流基金のプロジェクト担当官として勤務し、日本の外国語活動及び総合的な学習の時間に活用できるオーストラリアの教材とその使い方について、日本各地の教育委員会及び国際交流機関で講演、助言を行った。総合的な学習の学習指導案を日本全国から募集する企画を文部科学省の後援を得て行い、成果をまとめた。</p>
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称
				概要

(著書)					
1 読みを深める授業分析 小学校3年全授業記録と考察	共	昭和62年4月	明治図書	読みを深めるための指導実践を授業の全時間分収録し、授業研究に多くの示唆を与える実践を紹介した。第3学年「太郎こおろぎ」を担当し、人物像の変化に着目させ楽しく読む力をつける授業実践を提示した。(市毛勝雄、渋谷孝編著、平泉靖子、山根(増田)泉他 pp. 12~65) 全240ページ	
2 国語科授業の新展開4 詩の楽しさを教える授業	共	昭和63年8月	明治図書	小・中学生が詩を楽しんで読むことを目指した指導研究書である。小学校中学年の詩の授業実践を担当した。子どもの書いた詩を多く取り上げ、児童が作者と追体験のできる発問に絞る授業を提案した。(市毛勝雄編著、高橋秀一、山根(増田)泉他 pp. 88-121) 全252ページ	
3 読みの授業の筋道 中学校編1 小説教材	共	平成2年7月	明治図書	指導過程(読みの筋道)を分かりやすく示すことで、児童生徒に読みの力をつける授業提案を示した。中学3年「故郷」を担当した。音読し、人物像の変化にしぼって小説の面白さに気付かせることを目標とした。描写の読み方にも気づかせ意義を提案した。(市毛勝雄編著、品川正、村上正子、増田泉 pp. 143-203) 全234ページ	
4 実践言語技術教育シリーズ「文学教材編」(全20巻) 小学校編第5巻 「ごんぎつね」の言語技術教育	共	平成9年8月	明治図書	文学教材を読むための言語技術の習得を目指し、小学校教材12編、中学校教材8編について指導方法を提示したシリーズの第5巻に当たる。小学校4年「ごんぎつね」を担当した。4年生が無理なく自然描写や心理描写に気付く発問を工夫した。(市毛勝雄、渋谷孝、久能和夫、増田泉 pp. 49-83) 全88ページ	
5 言語技術を生かした新国語科授業〔説明文教材編〕(全13巻) 小学校編 第1巻	共	平成10年7月	明治図書	説明的文章教材を読むための言語技術の習得をめざし、小学校教材18編中学校教材8編の指導について提案したシリーズの第13巻に当たる。小学校1年「とりとなかよし」で音読、主要語句と文章構成の確認をした後、同じ文章構成で文章を書く提案をした。(渋谷孝、市毛勝雄、多田和幸、増田泉 pp. 51-78) 全82ページ	
6 「話し方・聞き方」新教材と授業開発 上巻	共	平成12年3月	明治図書	音声言語指導「話す・聞く」の教材集と指導事例について提案した。「聞き方」を重視した「話す・聞く」の3つの教材を開発し、①低学年の児童でも堂々と話すことができる教材、②自己紹介の練習ができる教材、③読み聞かせの教材を作成した。(市毛勝雄編、桜沢修司、増田泉他①pp. 21-23②pp. 25-28③pp. 70-72) 全201ページ	
7 国語科到達度・絶対評価ワークシート第1巻 基礎(視写・聴写・音読)編	共	平成14年7月	明治図書	学習の到達度を診断するための教材集である。国語科の基本的な力となる視写・聴写・音読に関する教材を作成して提案した。①長音・促音を正しく書く練習教材、②カタカナ表記を正しく書くための教材、③低学年の聴写の3つの教材を提案した。(市毛勝雄編、日本言語技術教育学会東京神田支部著 石田寛明、増田泉他①pp. 24-25②pp. 28-29③p. 80) 全139ページ	

8 論理的思考力を育てるドリル第2集	共	平成14年7月	明治図書	<p>児童生徒の論理的思考力を育てるドリル問題集である。順序、前後関係、具体と抽象の関係等、論理的思考の素地となる教材を提案した。①文章から前後関係を把握する課題、②順序や前後関係を考える課題、③二つの文を比較して推理する課題、④条件文から共通の性質を取り出す思考を学ぶ初期の学習教材、⑤二つの条件文から共通献立を抽出する課題の5教材を作成した。</p> <p>(市毛勝雄編、日本言語技術教育学会東京神田支部著 光野公司郎、増田泉他 ①② pp. 24-27③④⑤pp. 60-65) 全222ページ</p>
9 論理的思考力を育てる段落指導用(リライト)教材集成	共	平成14年9月	明治図書	<p>文章構成と「段落」の概念を分かりやすく指導する指導用教材集である。観察と記録、事項の報告を書くための4つの教材を提案した。(市毛勝雄編、日本言語技術教育学会東京神田支部著 大貫真弘、増田泉他 ①p. 38②p. 41③p. 44④p. 46) 全151ページ</p>
10 新国語科の重点指導 第7巻「伝統的な言語文化」を教える1「伝統文化・やまとことば文化」	共	平成21年10月	明治図書	<p>小・中学生が伝統的な言語を分かりやすく学習できるように、指導のポイントを絞って指導することを提案した。小学校高学年に指導する教材として「徒然草」「竹取物語」を担当した。音読・視写・語釈を中心に内容理解のための発問を示した。(市毛勝雄編著、岩井信康、増田泉 他 ① pp. 89-95②pp. 108-114) 全162ページ</p>
11 誰でもすぐ授業ができる新型学習指導案集「文学的文章教材編」	共	平成27年7月	日本言語技術教育学会東京神田支部	<p>誰でも文学教材を楽しく、確実に学力をつけられる授業の指導案(1教材を4時間で指導する)を示した。指導案はすべて台詞で書いてあるので、そのまま授業ができる。小学校第2学年「スイミー」「お手紙」の指導案を担当した。(市毛勝雄編著、大木真智子、増田泉他 ①pp. 6-17② pp. 18-29) 全166ページ</p>
12 誰でもすぐ授業ができる新型学習指導案集「論理的文章教材編」	共	平成27年7月	日本言語技術教育学会東京神田支部	<p>誰でも論理的文章を読む力をつけることができる授業の指導案(1教材を4時間以内で指導する)を示した。第6学年「笑うから楽しい」の指導案を担当した。主要語句を抽出し、文章構成を捉えて要約する指導について提案した。(市毛勝雄編著、岩井信康、増田泉 他 pp. 87-96) 全154ページ</p>
13 誰でもすぐ授業ができる新型学習指導案集「伝統的な言語文化教材編」	共	平成28年2月	日本言語技術教育学会東京神田支部	<p>小学校の「伝統的な言語文化」の指導について、日本の文化として親しむことを目的として音読中心の指導を示した。小学校第2学年「いなばのしろうさぎ」第3学年「俳句を読もう」第4学年「百人一首を読もう」を担当した。(市毛勝雄編著、岩井信康、増田泉 他①pp. 23-32②pp. 35-42③ pp. 101-108) 全296ページ</p>
14 新版 誰でもすぐ授業ができる新型学習指導案集「文学的文章教材編」(再掲)	共	平成29年2月	日本言語技術教育学会東京神田支部	<p>平成27年7月出版の『誰でもすぐ授業ができる新型学習指導案集「文学的文章教材編」』をもとに教材数を増やして紹介した。①小学校第2学年「スイミー」②小学校第2学年「お手紙」③小学校第2学年「きつねのおきゃくさま」④第4学年「じゅげむ」</p>

15	新版 誰でもすぐ授業ができる新型学習指導案集「論理的文章教材編」(再掲)	共	平成 29 年 2 月	日本言語技術教育学会 東京神田支部	⑤第 5 学年「洪庵のたいまつ」5 教材の指導案を担当した。(市毛勝雄編著、池田尚子、増田泉 他①pp. 43-54②pp. 55-65③pp. 80-92④pp. 145-150⑤pp. 178-192) 全 396 ページ 平成 27 年 7 月出版の『誰でもすぐ授業ができる新型学習指導案集「論理的文章教材編」』の教材を増やし、改編した。第 6 学年「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」の 2 教材を担当した。(市毛勝雄編著、岩井信康、増田泉 他 pp. 148-168) 全 260 ページ
16	はじめて学ぶ人のための国語科教育学概説 小学校(再掲)	共	平成 30 年 6 月	明治図書	新学習指導要領に基づき、国語科指導の中でも文章の特質を生かした読み方と書き方の指導を示した。主に①言語事項についての指導②伝統的な言語文化の指導「国語科教材と授業(5)一言語文化」を担当した。国語科の学習用語集の説明も担当した。(市毛勝雄序、長谷川祥子編、小川智勢子、増田泉他 ①pp. 47 - 48②pp. 122 - 132) 全 171 ページ
17	保育者をめざす人のための言葉の表現—話す・聞く・書く—(再掲)	共	平成 31 年 4 月	建帛社	保育者をめざす学生が必要とする表現の技術を「話す・聞く」「書く」の基礎編と活用編として述べた。練習問題も多く設定した。「書く」基礎編、「書く」活用編、練習問題と解答、「はじめに」を担当した。(篠原京子、増田泉 pp. 30 - 80) 全 109 ページ
18	大学生のための国語表現(再掲)	共	令和 1 年 5 月	東京館出版社	大学生が必要とする国語表現の基本から応用までを説明した。基本の小論文の書き方を示した上で、論文を書くことができる技術について説明した。論理的文章を書く基礎となる①「論理的文章と文学的文章の違い」②「論理の言葉と文学の言葉」を担当した。基本の文章構成を③「基礎を大事に」で説明し、長いレポートを書くための④「小論文を書こう」を担当した。⑤「要約のための練習問題」「はじめに」も担当した。(増田泉、篠原京子 ①pp. 10-11②pp. 14-15③pp. 34-51④pp. 54-83⑤pp. 88-91) 全 101 ページ
19	保育内容「言葉」と指導法 子どもの心のことばに澄ませて	共	令和 7 年 2 月	萌文書林	保育における言葉の理論と方法、実践及び発展から学び取ることを通して、学習者自身が意識的、往還的に学べることを意図した。テキストとして、子どもの言葉の育ちの場面から学べるよう、理論とその指導法の両面から説明している。①「領域『言葉』のねらいと内容」②「昔話」を担当した。(仲本美央、吉永安里編著、桃枝智子、和田美香、増田泉他 ①pp. 13-24②pp. 178-190 全 299 ページ)
(学術論文) 1	伝承物語の読み聞かせによる、効果的な幼小接続指導	単	平成 30 年 7 月	『新島学園短期大学子ども学研究論集』第 4 号	言葉の発達の観点から保育内容「言葉」と小学校国語科を接続させる指導の必要性を論じた。特に、日本の昔話やグリム童話等の伝承物語は幼児期にも児童期にも適し

				た教材であると主張した。伝承物語の読み聞かせに着目し、幼児期の読み聞かせが小学校での「読む」学習に結びつくような指導法が必要であることを提案した。pp. 25 - 34
2 領域「言葉」と「国語科」の変遷にみる幼小接続の重要性	単	平成 30 年 7 月	『新島学園短期大学子ども学研究論集』第 4 号	1956 年から 2018 年までの「幼稚園教育要領」における領域「言葉」の変遷と、「学習指導要領」における「国語科」の変遷を比較した。幼児教育と小学校教育の接続指導において幼児期では様々な体験を具体的に身近な言葉に置き換えることを通して語彙を増やし、言葉遊びや読み聞かせにより耳からの抽象的な言語を獲得することが重要であると示した。pp. 1 - 11
3 基本となる文章構成に着目した論理的文章の指導—小学校から大学までの小論文指導の方策—	単	平成 31 年 3 月	『新島学園短期大学研究紀要』第 40 号	論理的文章を書かせ指導において、文章構成の指導が必要である。基本となる文章構成を指導することは、小学生が論理的な文章を書く力を伸ばすことにつながる。日常生活を題材にした小論文を書く練習を続けると、他教科や社会問題を題材にした小論文を書く力を身につけることもできる。大学生の小論文指導においても、この方法は有効であることを検証した。pp. 37 - 50
4 保育内容（言葉）と小学校国語科の接続における伝統的な言語文化の教材研究	単	令和 1 年 9 月	『子ども学研究論集』第 5 号	幼児教育と小学校教育の接続期における言語能力育成のために、伝統的な言語文化が教材として適している点に着目した。言葉遊びや読み聞かせによって幼児期に獲得する語彙が豊かになり、読み聞かせで聞いた話を国語科の学習として児童自身が音読することによって読む楽しさを味わうことが言語能力育成につながるについて論じた。pp. 1 - 14
5 幼小接続期の教材としての『日本語』教科書とその指導法—音読による言語能力育成の有用性についての一考察—	単	令和 1 年 9 月	『子ども学研究論集』第 5 号	幼小接続期の教材という視点から、東京都世田谷区の教科『日本語』教科書について着目した。特に、「日本語」第 1 学年の教科書教材には言葉の繰り返しが多く見られ、リズムカルな要素がある。この教材で指導することが、音読する力や語彙力の育成に効果があることを論じた。また、教材を数例取り挙げ、実践をもとに指導法について整理した。pp. 89 - 101
6 幼児期の言葉の発達を促す読み聞かせについての考察—小学校国語科における「聞く力」を高める指導を見通して—	単	令和 2 年 3 月	『新島学園短期大学研究紀要』第 41 号	幼児期からの言葉の発達のために読み聞かせが有効で、それが小学校国語科の「聞く」学習にもつながる。本研究では、幼児期のどの段階に何を読み聞かせるのが効果的であるか、幼児の「聞く」力の発達と関連付けて示した。pp. 109 - 122
7 幼児期の読み聞かせに適する伝承物語と創作絵本の特徴—「ぐりとぐら」「ぐるんぱのようちえん」に見る昔話との共通性—	単	令和 2 年 7 月	『子ども学研究論集』第 6 号	本研究は、長く読み継がれてきた創作絵本に伝承物語と同様の特徴が認められる点に着目した。長く読み継がれてきた創作絵本を取り上げ、伝承物語との共通性を明らかにした。双方に認められる特徴は小学校国語科の学習につながる幼児期の言語能力育成に有効であると主張した。pp. 27 - 37
8 幼児期における読み聞かせの意義についての考察	単	令和 2 年 7 月	『子ども学研究論集』第 6 号	幼稚園、保育園等に比べ家庭における読み聞かせの割合が低く、その原因は家庭の

				意識の違いによる。読み聞かせの意義を整理し、読み聞かせによって幼児の言葉の発達が促され、読み手と聞き手のコミュニケーションが増加することを明らかにした。読み聞かせの指針となるよう、配慮する点についても提案した。pp. 13 - 26
9 基本の書き方を活用した大学生の小論文指導―帰納的思考による文章構成力と描写力の向上―	単	令和3年3月	『常葉大学保育学部研究紀要』第8号	論理的文章を書く力が十分身に付いていない学生への指導にかなり課題があるが、実際に文章の書き方指導を行っている大学は多くない。基本の文章構成に基づく練習用小論文の実践により、大学生に論理的文章を書く基本的な力をつけることができれば、基本の文章構成を活用して卒業論文にも対応できる力を養うことができることを提案した。帰納的思考に基づく基本の文章構成を指導する成果も示した。pp. 61 - 71
10 幼小接続を踏まえた文字の書き方指導	単	令和3年7月	『新島学園短期大学子ども学研究論集』第7号	文字の書き方指導を幼児から始める傾向が強くなっているが、鉛筆の持ち方や書字指導には課題がある。正しく文字を書くには、正しい筆順で字形を整えて書く指導と鉛筆の持ち方の指導との両方が重要になるが、小学生に対してその指導が効果的に行われているとは言えない。本論文では、幼小接続を踏まえ、幼児期から小学校入門期に効果的な指導法を提案した。pp. 49 - 63
11 幼小接続を見通した国語力向上のための一考察―語彙力を育成する言葉遊び―	単	令和4年3月	『常葉大学保育学部研究紀要』第9号	語彙力の向上のために小学校教育と幼児教育で重視する点を整理し、幼小接続を見通した語彙力の育成について考察した。円滑な幼小接続を図る上で「言葉遊び」が有効な教材となる要素を整理し、幼小接続期に重要となる言葉遊びを提案した。pp. 59-69
12 大学初年次教育におけるアカデミックライティングの実践と評価	単	令和5年3月	『常葉大学保育学部研究紀要』第10号	大学で必要となる文章力を向上させるには具体的事例を根拠とする書き方の指導と共に、論理的文章の基本的な書き方についての理解が関係する点を、大学初年次の文章表現指導実践をもとに論じた。初年次の文章表現指導として、基本的な書き方を応用して文章を書くためのドリル教材を作成して授業時に用いた。pp. 69-79
13 幼児期から学童期の子どもに語る昔話の意義―「残酷」なエピソードの捉え方に着目して―	単	令和8年	『東京成徳大学子ども学部紀要』第16号	昔話には一部「残酷」と思われるエピソードがあるため、昔話絵本や紙芝居となる際に改編されることがある。子どもに語る昔話にとって「残酷」なエピソードの意義に着目し、昔話における「残酷」について整理した。また、なぜ「残酷」なのか、「残酷」でも語ってよいのかについて考察した。pp. 81-92

(その他・学会発表)				
1 物語を読むための言語技術「あらすじ・描写・登場人物の変化」	単	平成 26 年 8 月	日本言語技術教育学会第 24 回大会『言語技術教育』第 24 号	文学教材で身に付けさせる基本の学習として、音読、あらすじの確認、描写を読む、登場人物像の変化の確認であると述べた。特に「ごんぎつね」は描写を読む入門期として位置づけられるので、特に、色に着目させる指導を提案した。pp. 18 - 19 模擬授業を行い、授業検討会のパネリストとして口頭発表も行った。
2 文学教材の授業で身に付けさせる言語技術の明確化	単	平成 27 年 7 月	日本言語技術教育学会『言語技術教育』第 25 号 全国大学国語教育学会『国語学研究』第 129 回	学会大会テーマ「言語技術が見える授業づくり」において、文学教材の授業で身に付けさせる言語技術を明確にする必要性を述べた「大造じいさんとガン」では、一見情景描写の中に、大造じいさんの心情を表す描写がある。この読み方の指導が小説で心理描写を読み味わうことにつなげる学習となることも示唆した。pp. 104 - 105 (紙面発表)
3 作文指導の研究—教材の傾向と対策—	単	平成 27 年 10 月	全国大学国語教育学会『国語学研究』第 130 回	「書く」力を指導する具体的な方法を明確にし、効果的な指導について実践をもとに述べた。教科書教材の傾向を考察し、教科書教材の文章構成表や見本の文章が、児童の論理的文章を書く力の向上に有効かを分析した。pp. 169-172 口頭発表も行った。
4 伝記教材の指導研究	単	平成 28 年 5 月	全国大学国語教育学会『国語学研究』第 131 回	伝記教材の指導では、伝記の内容を読み取る力と、人物について自分なりの考えや意見を述べる力の両方を身に付けさせる必要があることを示した。小学校における伝記教材の指導では、伝記を「文学的な文章の手法を多様に取り入れた論理的な文章」として指導することが有効であると論じた。pp. 35-38 (紙面発表)
5 「表やグラフを使って文章を書く」につなげる言語技術	単	平成 28 年 8 月	日本言語技術教育学会第 26 回大会『言語技術教育』第 26 号	「読む」を「書く」につなげる言語技術として論理的な文章を読む基本的な技術を、音読・段落のキーワード・文章構成として提案した。非言語資料は、段落のキーワードの根拠となることも指摘し教材「天気予想する」の文章を例にして説明した。pp. 42 - 43 パネリストとして口頭発表を行った。
6 小論文指導と教材の役割	単	平成 28 年 10 月	全国大学国語教育学会『国語学研究』第 132 回	小学生が論理的な文章を書く手本になる教材の役割を明確にするために教科書教材を分析し、効果的な教材文を開発する必要性を指摘した。手本になる教材の読み方が、論理的な文章の書き方に結び付き、書く力が向上するという視点で、有効な教科書教材を示し、指導法を提案した。pp. 321 - 324 口頭発表も行った。
7 小学校国語科における伝統的な言語文化の指導法	単	平成 29 年 5 月	全国大学国語教育学会『国語学研究』第 133 回	小学生が伝統的な言語文化に親しみ、読み味わうための基本的な指導法を提案した。世田谷区の「教科日本語」を基に、国語科として基本となる指導法を示した。①音読、②現代語訳の音読、③教材の特徴に気付かせるための課題、④他の作品を読む、⑤感想を発表するの 5 点を中心にした指導が伝統文化に親しむ素地となると提案した。pp. 259 - 262 口頭発表も行った。

8 「伝統的な言語文化を楽しむ」言語技術を提案する	単	平成 29 年 7 月	日本言語技術教育学会『言語技術教育』第 27 号	小学校「伝統的な言語文化」の授業として短歌を指導するのは短歌に親しむことを重点とする。そのための言語技術は音読が重要であることを主張した。また、短歌の特徴を理解させる発問に絞り、好きな短歌を選ばせることが主体的に読み味わう力につながるについて論じた。pp. 106 - 111 提案授業を行い、授業検討会のパネリストとして口頭発表も行った。
9 日記指導の評価の技術	単	平成 29 年 11 月	全国大学国語教育学会『国語学研究』第 134 回	文章表現技術を向上させるためにも日記指導を効果的に行うことが重要だと述べた。書かせる目的と評価のポイントを明確にし、児童や保護者が何をどのように書けばよいか分かるようにする重要性について実践をもとに報告した。日記の評価を文章構成、具体的記述の有無、表記の適否の 3 点に絞って指導したところ、日記以外の文章を書く力も向上した例も示した。pp. 363 - 366 口頭発表も行った。
10 論理的思考力を育成する小論文指導の一考察—小学校高学年の実践を例にして—	単	平成 30 年 5 月	全国大学国語教育学会『国語学研究』第 135 回	小論文の指導では①基本の文章構成②一段落一事項の原則③複数の具体例を抽象化して考察を述べることを繰り返し指導する重要性について論じた。評価は①板書添削②個別評価③よい作品の読み聞かせを継続すると効果がある。実践を基に、同じ型で繰り返し指導することによって、児童が小論文を向上させる観点を理解して文章力が向上することを示した。pp. 59 - 62 口頭発表も行った。
11 国語科の指導技術の中核となるのが言語技術である	単	平成 30 年 6 月	日本言語技術教育学会『言語技術教育』第 28 号	国語科の指導では言語能力を形成すること、言語技術教育を系統的に計画し、実践することが重要であることを主張した。学力を高めることができ、普遍的で繰り返し指導できる技術が求められる。「話す・聞く」「読む」「書く」の観点について、言語技術として普遍的な指導のポイントを示した。言語技術が身につくまで指導し、児童の言語能力を高める必要性について述べた。pp. 36 - 39 パネリストとして口頭発表も行った。
12 音読し、主要語句を見つけて内容の大体を知る技術	単	平成 30 年 6 月	『日本言語技術教育学会北海道支部第 4 大会紀要』紙面発表	低学年の児童に情報活用技術を身につけさせ、他教科の学習に生かすことができるようにするために、まず音読の力をつける必要がある。範読、音読練習を繰り返し、誤読をなくすよう提案した。その上で形式段落を確認し、主要語句を見つける指導を繰り返すことで、文章の内容を正しく理解し、読む力を身につけさせることができることを示した。pp. 107-108
13 基本の文章構成を生かした読み方書き方の指導	単	令和 1 年 6 月	全国大学国語教育学会『国語学研究』第 136 回	基本となる文章構成を指導して論理的文章を書く練習を繰り返し、基本の文章構成を身に付けさせることによって、応用形の文章構成で論理的に書くことができるようになる。また、同時に、応用形の文章構成で書かれた文章を読む力も向上する。論理的思考力の育成を図るためには基本の文章構成を繰り返し指導することが重要である

				と主張した。pp.169 - 172 口頭発表も行った。
14 段落の役割に気付き、中心となる語を見つける力	単	令和1年6月	日本言語技術教育学会『言語技術教育』第29号	論理的に思考し表現する力や、多様な情報を読み取って比較・検討する力をつけるには、論理的思考力を高める系統的な指導が必要になる。小学校第3学年の教材「すがたをかえる大豆」において、事例となる段落と筆者の考えが書かれている段落の役割に気づかせ、段落の中心となる語を見つける力がつくような指導が求められる。中学年で必要な観点をしばって指導する重要性を述べた。pp.72-73 パネリストとして口頭発表も行った。
15 保育内容（言葉）と小学校国語科の接続における昔話の教材研究	単	令和1年10月	全国大学国語教育学会『国語学研究』第137回	幼小接続期の教材として特に昔話の有効性を論じた。幼児期に耳から得た音声言語を小学校では自分で読むことにつなげる上で、昔話が教材として適する特徴をもつ。また、昔話を教材とした指導法についても提案した。pp.187 - 190 口頭発表も行った。
16 小学校国語科における文学的文章指導の提案—幼小接続期の読み聞かせから高学年の指導を見通して—	単	令和2年10月	全国大学国語教育学会『国語学研究』第139回	国語科の指導は幼小接続期の読み聞かせから高学年の読書までを見通して考える必要がある。読み聞かせの意義と幼児期の読み聞かせの実態について整理した上で、幼小接続期の読み聞かせを活用した入門期の指導を行うこと、高学年までを見通した描写の読み方を指導する重要性について提案した。pp.299 - 302 口頭発表も行った。
17 文学作品「一つの花」では、暗示的、象徴的な表現に気付かせる	単	令和3年7月	日本言語技術教育学会『言語技術教育』第30号	文学的文章を読むことの指導では、基本となる音読、登場人物とあらすじの確認、人物像の変化の確認、描写の発見、感想に加え、作品の特徴を生かした読み方指導が重要になる。「一つの花」の暗示的、象徴的な表現の読み方の指導を「一輪のコスモス」や戦後の多くのコスモス等に気付かせて読み取ることが小学校4年生には適切であることを主張した。pp.102-103（クラウド大会にて指定討論者としてオンライン発表）
18 論理的思考につながる「聞く・話す」指導の一試案	単	令和3年10月	全国大学国語教育学会『国語学研究』第141回	大学生でも論理的に話す際にどのように話すか迷う現状があり、学校教育の中で論理的に話す力を高める必要がある。そこで、話す力を高めるために基本の型を指導し、継続した指導法の重要性を指摘した。実践をもとに大学生の話す力の向上を示し、この指導が有効であることを主張した。pp.235 - 238（オンライン大会のため紙面発表）
19 幼小接続における伝統的な言語文化の教材化—昔話の読み聞かせと言葉遊び—	単	令和4年5月	日本保育学会第74回大会	子どもの語彙力向上のためには幼児期に昔話の読み聞かせをすることと合わせて言葉遊びを継続して行うことが効果的である。幼児期から幼小接続期にかけて、これらの指導を継続することが、円滑な幼小接続のために有効である。具体的な言葉遊びを例に挙げ、幼小接続期の指導法を提案した。（オンライン大会において録画による口頭発表、分科会座長も行った）

20 小学校国語科における情報を活用した論理的文章の書き方指導	単	令和4年5月	全国大学国語教育学会第142回大会	大学生の文章指導において難しさを感じる点は情報を活用して書く力をつけることである。小学校段階から継続して計画的な指導をすることで文章表現力は向上する点に着目し、情報の活用に重点をおいた論理的文章の書き方指導について提案した。現行の小学校第3学年の教科書教材を分析し、教科書教材を活用した指導法を示した。pp. 301-304 (オンライン大会のため紙面発表)
21 非連続テキストを用いて書く言語技術	単	令和4年7月	日本言語技術教育学会『言語技術教育』第31号	非連続型テキストを用いて文章を書くには、抽出した情報の言語化と、情報を基に考察して書く力が必要である。それらを論理的な文章構成に位置付けて書く指導をすべきだと主張した。他教科と関連させる重要性も指摘した。pp. 78-79 パネリストとして口頭発表も行った。
22 小学校で学んだ力をもとに根拠を明確にして書く力を伸ばす	単	令和5年6月	日本言語技術教育学会『言語技術教育』第32号	中学生が論理的文章を書く力を伸ばすためには、客観的な根拠を明確にして自分の意見を述べる練習を継続する必要がある。そのために、小学校で学んだ文章構成をもとにし、根拠を述べる段落と意見や感想を述べる段落を区別する書き方を指導すべきだと主張した。pp. 82-83 パネリストとして口頭発表も行った。
23 詩の楽しみ方を教える言語技術	単	令和6年6月	日本言語技術教育学会『言語技術教育』第33号	詩の指導では、詩に表現された言葉のリズムを楽しみ、詩の特徴を味わうことができる学習活動を行うことが有効である。谷川俊太郎「うんとこしょ」では、第一連の「ぞう」「ありんこ」から第四連の「うた」「こころ」という抽象的概念につながる発想のおもしろさに気付かせる課題によって詩の興味をもたせることが重要になると主張した。pp. 148-149
24 主体的に「聞く」ための言語技術	単	令和7年6月	日本言語技術教育学会『言語技術教育』第34号	「話すこと・聞くこと」の学習において、特に「主体的に聞く」ための言語技術として3点を挙げて説明した。3点の言語技術となるのは、話のキーワードを聞き取る言語技術、自分の考えと比較しながら情報を整理する言語技術、自分の考えを形成するためにさらに必要な質問をする言語技術である。p. 60-61
(その他・教育雑誌関係) 1 論理的文章の書き方の技術「週ごとの指導計画(週案簿)の書き方」	単	平成20年10月	明治図書『教育科学国語教育』臨時増刊 No. 729	特集「若手教師、これだけは身につけたい言語技術」において、「週ごとの指導計画(週案簿)の書き方」について述べた。指導計画のねらいは一文、指導計画のキーワードを簡条書きにすることを提案した。作り方の手順として①行事予定を二ヶ月先までは記入する②一ヶ月分の教科名を書く③単元の指導計画は、一週間分とはせずに一度に記入することが重要であると示した。pp. 32 - 34
2 物語文=授業をイメージした学習活動の組み立て方「音読・あらすじ・描写・変化・感想」	単	平成28年5月	明治図書『教育科学国語教育』5月号 No. 785	特集「授業をイメージした新教科書研究」において、「物語文の授業の組み立て方」について述べた。物語文の読み方を示す学習として、「音読・あらすじ・描写・人物像の変化・感想」の5項目についての学習

<p>3 理科と日常をつなぐ言語化と意識化「伝統的な言語文化を楽しむ」言語技術を提案する</p>	<p>単</p>	<p>平成 28 年 8 月</p>	<p>東洋館出版社『理科の教育』8月号 No. 757</p>	<p>を、発達段階に応じて繰り返す効果を示した。pp. 24 - 25</p> <p>特集「理科と日常生活が結びつく瞬間」において、「理科と日常をつなぐ言語化と意識化」について述べた。日常生活と理科をつなぐ体験を積み重ねるために低学年の生活科とのつながりを大事にし、地域の特性を生かすことを提案した。また、学習した自然科学の法則を言語化し、理科の学習で得た知識を日常生活で活用することの有効性について述べた。pp. 15 - 17</p>
<p>4 意欲的に「書く」ために「実物」を示す 授業の流れがわかる！</p>	<p>単</p>	<p>平成 28 年 12 月</p>	<p>明治図書『教育科学国語教育』12月号 No. 792</p>	<p>特集「意欲的な学習のために実物を用いて導入を工夫する」において、文章を書かせる導入に実物を用いることを提案した。高学年の「書く」学習では、図表や写真などの資料から内容や 目的に合わせて必要な情報を読み取り、読み取った情報を活用して文章で表すことも行う。この導入として「実物」を示し、その「実物」について説明する文章を書く課題はよい思考鍛錬になり、「書こう」とする児童の意欲を大変高めることを示した。pp. 50 - 53</p>
<p>5 俳句・短歌・古典の授業モデル 小学校短歌・俳句に親しもう (二) 表現の特徴を一点にしぼって確認する</p>	<p>単</p>	<p>平成 30 年 5 月</p>	<p>明治図書『教育科学国語教育』5月号 No. 821</p>	<p>短歌のリズムは現在でも生活の中に多く用いられる。少ない言葉で表現されるので多くの技法が用いられ、作者のもの見方や表現には深い意味もある。しかし、それら全てを小学生に理解させようとしても親しむことにつながらない。発問づくりのポイントをしぼり、短歌や俳句を楽しんで読もうとする意欲を高める発問づくりの技術を提案した。pp. 76 - 79</p> <p>以上</p>